

## 令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号	115
------	-----

### 自己評価

学校教育目標	自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	--

### 【小学部】

評価する領域・分野	小学部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。</li> <li>・教職員の児童生徒への愛情や熱意が家庭に伝わっている。</li> <li>・家庭と積極的に連携がとれている。(連絡、懇談、個別の支援計画)</li> <li>・保護者への積極的な働きかけやコミュニケーションの充実を図っていく。</li> <li>・ホームページにて、学習や行事の様子の掲載を続けて理解を深めていく。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身に付ける活動や決まりのある学習活動を通して、集団生活に必要な力を育てる。</li> <li>・一人一人の思いを受け止め、保護者と連携しながら、周りの人に伝える力を育てる。</li> <li>・いろいろな身体の動かし方を身に付け、運動量を増やし、社会生活を送るために必要な力を育てる。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会 主任会 学年会 教科会 ケース会議 Teams の活用</li> <li>・リズムランニング 散歩 「からだ」の時間 昼休みの活用</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任会、学年会を中心とした協力、相談の体制づくり</li> <li>・保護者や関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用</li> <li>・学習計画、評価、ICTの活用(授業での活用・情報共有)</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケート及び職員アンケート</li> <li>・児童の様子 ・学年会 ・部会</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣化することで、自分で行動することを増やすことができた。</li> <li>・伝えようとする児童の気持ちを汲み取り、伝える場を設定した。</li> <li>・リズムランニング、散歩、外遊びなど身体を動かす機会を設けた。</li> </ul>	
評価の視点		評価
①基本的な生活習慣を身に付ける活動や決まりのある学習活動を実践することができたか。	A ② C D	
②一人一人の「伝える力」を育成する取り組みを行うことができたか。	① A B C D	
③いろいろな身体の動かし方を身に付け、運動量を増やすことができたか。	A ② C D	
成果・課題	総合評価	
○日常生活の中で繰り返して行うことを通して、習慣化することができた。 ○伝える方法を示し、伝えやすくすることで、伝えたい気持ちを育むことができた。 ○身体を動かす時間を設け、身体の部分の使い方の指導を行うことができた。 ▲歯磨きや手洗い、給食指導等、生活習慣の指導の充実を図る。	A ② C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を設定し、達成できるような声掛けや指導をしていく。</li> <li>・部内で統一の絵カードやジェスチャーを検討していく。</li> <li>・児童が自分の身体を自ら動かそうとする機会を増やす。</li> </ul>	

【中学部】

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標や教育方針については十分な理解を得ている。</li> <li>・教員の生徒への愛情や熱意が保護者に伝わり、信頼されている。</li> <li>・保護者への積極的な働きかけやコミュニケーションが求められている。</li> <li>・実態に即した教材・教具の準備等、きめ細かな指導が求められている。</li> <li>・将来に向けた地域とつながる活動が期待されている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要な知識・技能・および態度を、体験を通して育成する。</li> <li>・学校や地域の人とともに活動する中で、周りの人と関わる力を育てる。</li> <li>・自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てる。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任、作業班を中心としたチーム体制</li> <li>・各分掌との連携</li> <li>・部会、主任会、学年会、教科会、個別懇談</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握、学習課題の明確化、生徒の力が発揮できる授業づくり</li> <li>・学年会、主任会を中心とした協力・相談体制づくり</li> <li>・保護者や関係機関との連携と、地域の人と関わる機会の充実</li> <li>・個別の指導計画や支援計画の適切な活用</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習評価、キャリアパスポート</li> <li>・連絡帳、個別懇談、学校アンケートでの保護者からの意見や感想</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、類型での教材研究や授業実践の積み上げ</li> <li>・保護者や教員間での個別の指導計画や支援計画の活用</li> <li>・保護者懇談や校外も含めた関係者とのサポート会議</li> </ul>
評価の視点	評価
① 体験を通して、社会生活に必要な知識・技能・および態度を育成することができたか。	A (B) C D
② 周りの人と関わる力を育てる取組を行うことができたか。	A (B) C D
③ 自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てるための生徒支援や授業実践ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○安心・安全な教育環境を整え、生徒への愛情をもってよりよい授業づくりに努めることができた。</p> <p>○周りの人との関わりを高める活動を工夫し、主体的に活動できる場を確保することができた。</p> <p>▲教材・教具の共有や部全体でのきめ細かな指導がもっと必要だった。</p> <p>▲将来に向けた地域との活動や職業体験・職場見学の位置付けが不十分だった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部として一貫した指導・支援をするため、部内ルールを明確化する。</li> <li>・よりきめ細かな指導につなげるため、教材・教具の共有や情報交換をする。</li> <li>・将来につなげるために地域交流の見直しや進路学習の位置付けを行う。</li> </ul>

【高等部】

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。</li> <li>・教職員の児童生徒への愛情や熱意が家庭に伝わっている。</li> <li>・家庭と積極的に連携がとれている。（連絡、懇談、個別の支援計画）</li> <li>・保護者への積極的な働きかけやコミュニケーションの充実を図っていく。</li> <li>・ホームページにて、学習や行事の様子の掲載を続けて理解を深めていく。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割に対して、責任をもってやり遂げる力と進んで周囲と協働する力を育成する。</li> <li>・自己を理解する力や管理する力を高め、健康な身体と周囲を思いやる豊かな心を育成する。</li> <li>・卒業後に社会人として地域と関わり、社会に貢献できるよう、社会生活・職業生活に必要な力を育成する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任、類型主任を中心とした高等部全体の連携</li> <li>・校内分掌との連携</li> <li>・家庭、市町、医療等関係機関との連携</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動、作業学習、部活動等、様々な集団の活動の場で役割や責任のある取組を設定し健康や安全についても実践的な学習を行う。</li> <li>・現場実習や企業内作業学習、インターンシップを通じた社会体験や就労体験を行い、校内で学習したことを一般社会の中で実践する。</li> <li>・高等特支機能についての考え方をもとに教育環境や教育課程を検討する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の様子（出席状況、学習評価）</li> <li>・現場実習やインターンシップの評価や進路決定状況</li> <li>・学校アンケートおよび職員アンケート、保護者からの意見</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生：校内作業学習（年1回）・企業内作業学習（年2回）</li> <li>・2・3年生：現場実習（年2回）※肢体不自由・病弱学級はインターンシップを実施</li> </ul>
評価の視点	評価
① 生徒が自身の良さや適性を学び、適切な進路目標を設定することができたか。	Ⓐ B C D
② 実習を通じて生徒それぞれが設定した目標を達成することができたか。	A Ⓑ C D
③ 教育環境や教育課程について検討し、改善することができたか。	Ⓐ B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習を重ねながら自身と向き合い、実習や学校生活の目標を設定する生徒の姿がみられた。</li> <li>○設定した目標を達成する生徒もあれば、そのまま課題として残る生徒もいた。</li> <li>○学部内の主任や分掌長を中心としたミーティングを重ね、教育環境や教育課程について議論・検討する場を設けた。</li> </ul>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒それぞれが「より深い学び」ができるように今年度検討した日課や教育課程について実践・検証していく。</li> <li>・就労だけでなく、卒業後の生活に具体的な希望や目標をもつことができる指導支援を目指す。</li> </ul>

【教務部】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務（教育計画、教育課程、年間行事計画、学校説明会等）</li> <li>・庶務（指導要録、通知表、校内規定集整理等）</li> <li>・学習指導（個別の指導計画、指導と評価の年間計画、教科会等）</li> <li>・教育環境（図書管理、教務部用 HP 管理、施錠当番、理科教育施設台帳等）</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標に共感を得て、児童生徒の可能性を伸ばす工夫がされている。</li> <li>・授業内容は児童生徒の実態に即しており、体験的な活動や教材教具の工夫により児童生徒は積極的に取り組んでいる。</li> <li>・授業や学校行事等の参観等、教育活動について公開している。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化やニーズに適応できる実践力を育む教育の推進。</li> <li>・行事の早期計画と精選、業務分担の明確化、簡素化に努める。</li> <li>・学習活動の充実のための環境整備及び個人情報・保存文書の的確な管理に努める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事における他分掌との連携</li> <li>・教務部会、教科会</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進、ふるさと教育や地域資源を活用した授業づくりに取り組む。</li> <li>・教科会と部の日、教材研究の日を活用し、学習指導要領に基づいた学習実践の評価改善を図る。</li> <li>・行事等の早期計画と精選を行い、明確な業務分担のもと他分掌と連携を図る。</li> <li>・記録台帳等を使用し、個人情報・保存文書の的確な取り扱いと管理を行う。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各業務における反省と評価</li> <li>・キャリアパスポートの活用状況</li> <li>・個人情報の管理状況の確認</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムを活用した、出席簿及び個別の指導計画の作成</li> <li>・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進</li> <li>・半日日課の設定やチームスの活用による職員の業務負担の軽減</li> <li>・個別ファイル、要録等の個人情報の管理の徹底</li> </ul>
評価の視点	評価
① 教育実践の充実を図ることができたか	A (B) C D
② 職員の業務負担軽減につながる取組ができたか	(A) B C D
③ 個人情報の的確な管理ができたか	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務支援システムの活用を進めることができた。</li> <li>○年間の授業時数を見直し、より適切な教育課程の編成ができた。</li> <li>○キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進を図ることができた。</li> <li>○東濃信用金庫での学校紹介など、積極的な当校の教育内容の周知ができた</li> <li>○個人情報・保存文書の的確な管理ができた。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システム活用を通じた個別の指導計画作成の推進</li> <li>・児童生徒の学びの拡充を目的とした教育課程の検討</li> <li>・他分掌との連携によるキャリア教育の更なる推進</li> </ul>

【支援センター部】

評価する領域・分野	センター的機能、地域連携、校内支援
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域からの依頼に応じ、センター的機能の充実に取り組んでいる。また、特別支援教育やセンター的機能について周知し、活用を促している。</li> <li>・校内の相談に対応し、必要に応じてサポート会議や外部連携へつなげている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の人的資源を活用した、より継続的、実践的な支援を提供する。</li> <li>・支援経過を確認しながら、提供した支援の有効性について評価し、改善する。</li> <li>・児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、支援が必要なケースを積極的に把握し、早期に対応する。</li> <li>・関係機関との連携を密にして、より迅速に適切な支援につなぐ。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的機能（相談支援、訪問支援、研修支援、情報提供）</li> <li>・地域連携（地域支援会議、福祉事業所対応、個別の教育支援計画、交流及び共同学習）</li> <li>・校内支援（「気にかけてほしい子」の情報共有、サポート会議、外部連携）</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的機能充実のための地域での情報発信</li> <li>・各学部、各分掌との情報共有、役割分担の確認</li> <li>・積極的な外部連携及び校内サポート会議の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援：関係機関との連携、園や学校等に支援後の様子を確認</li> <li>・校内支援：支援、指導、助言の記録、進捗状況の確認や分掌反省の実施</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター的機能についての情報発信や活用の充実</li> <li>・地域の就学や支援に関わる指導・助言</li> <li>・校内における児童生徒の情報収集及びサポート会議・連携会議の実施</li> </ul>
評価の視点	評価
①校内の児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、適切な支援ができたか。	A ② C D
②センター的機能を通して、地域の園や学校等に対して適切な支援ができたか。	① A B C D
③各部、各分掌と連携し、校内支援に取り組むことができたか。	A ② C D
成果・課題	総合評価
<p>○地域のセンターとして、訪問支援、電話相談、来校相談、研修講師派遣を行い、特別支援教育に関わる支援や助言を行うことができた。また、学校見学や研修講話にて、当校の教育活動の情報提供や就学に関わる支援ができた。</p> <p>○校内の相談に応じて、地域の関係機関と連携したり、校内でサポート会議を行ったりし、支援を検討することができた。</p> <p>▲校内、校外ともに、支援経過の確認が不十分であった。経過の確認をし、継続的な支援へと繋ぐ。</p> <p>▲校務システムを使用した個別の教育支援計画の作成の移行はおおむねうまくスタートできたが、書き方や活用の仕方の課題が出てきている。</p>	A ② C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特別支援教育体制の充実を図るため、可茂教育事務所や各市町村教育委員会等と連携。</li> <li>・保護者向けアンケートの実施や主任会・学部会等での情報収集。</li> <li>・訪問支援やサポート会議等の実施及び経過確認と情報共有の場の設定。</li> <li>・教務部や進路指導部と連携し、個別の教育支援計画の作成・活用。</li> </ul>

【生徒指導部】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導（各種研修の実施、児童生徒一覧、長期休暇前だより、アルバイト等）</li> <li>・教育相談（いじめ防止等対策委員会、SC活用、心のアンケート等）</li> <li>・通学指導（スクールバスに関する業務、自力通学生指導、交通安全教室等）</li> <li>・特別活動（児童生徒会活動、MSリーダーズ活動、クラブ・部活動等）</li> <li>・人権教育（いいこと見つけ、人権研修会、ひびきあいの日等）</li> <li>・学校祭（学校祭企画運営、実行委員会招集）</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。</li> <li>・学校の先生と児童生徒あるいは保護者との懇談が十分に実施されていることから、保護者の不安解消、問題事案の未然防止、早期発見・対応に繋がっている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な観察、教育相談、アンケートを実施し保護者と連携して対応する。</li> <li>・児童生徒の理解と心のケアに努め、丁寧なアセスメントを行い組織的に対応する。</li> <li>・インターネットの利用による犯罪被害の防止及び様々な交通場面における危険について理解するために安全教育の推進を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止等対策委員会、ケース会議、教育相談、生徒向けの研修については、外部機関と連携して実施。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケート、人権に関わる授業等を実施</li> <li>・いじめ防止等対策委員会、ケース会議等の実施</li> <li>・外部講師による情報モラル教育と全校体制での交通安全教育の推進</li> <li>・外部講師を招いて情報モラル研修、薬物乱用、デートDVに関わる研修の実施</li> <li>・児童生徒会、MSリーダーズ活動、部活動の運営、学校祭の総括</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の主体的な言動や様子</li> <li>・学校評価における、当校の生徒指導上の指導や支援に関する評価</li> <li>・いじめ防止等対策検討会議における、当校のいじめ対応等に関する評価</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCを活用し心のケアに努め、重大事案への発展の防止</li> <li>・アンケートを活用し、表面化しにくいいじめ認知事案を迅速に組織で対応</li> <li>・各種マニュアルの見直しと訓練の実施</li> <li>・SB運行計画作成と運行業務、交通安全指導と自力通学指導の実施</li> <li>・人権教育と啓発取組の実施及び取組内容を学校祭で保護者や地域の方に周知</li> <li>・児童生徒会、委員会、集会、MSリーダーズ活動等の実施</li> </ul>
評価の視点	評価
①生徒指導全般において組織で対応し、適切な指導や支援ができたか。	A (B) C D
②児童生徒が主体的に活動できる環境や活躍の場を確保できたか。	A (B) C D
③児童生徒の人権意識の向上といじめ重大事案に至らない日々の指導ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○問題事案について、関係職員が迅速に情報交換を行ったことで、早期に対応することができた。</p> <p>○不測の事態はありつつも、混乱なくスクールバスの運行ができた。</p> <p>○学校祭の組織的な運営ができた。</p> <p>▲不登校生徒への対応が担任任せになってしまった。</p> <p>▲学校祭運営のTeamsにおいて情報過多となった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・自発的に成長しようとしていく児童生徒を育てる生徒指導と教育相談の組織的な実施</li> <li>・教育相談室の整理と活用と不登校生徒対応体制の構築</li> <li>・学校生活アンケートを活用した教育相談週間の実施</li> </ul>

【研修部】

評価する領域・分野	研究推進、各種研修
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態を的確に捉えることや、一人一人に合った教材・教具の工夫等について、保護者からの肯定的な評価がやや少ない。</li> <li>・教員一人一人が主体的な学びをマネジメントし、専門性をより向上させる必要がある。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の中で取り組む重点課題（実践）を蓄積する研究の体制を構築する。</li> <li>・研究や研修を通して、教員同士が対話できる機会を意図的に設定することで、資質の向上につなげる。</li> <li>・キャリア教育を推進し、キャリア・パスポートの充実と活用を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会</li> <li>・初任者研修推進委員会</li> <li>・分掌会</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の業務における重点課題をテーマとし、実践を積み重ね、年度末には実践集として互いに必要な情報等を共有できる、1人1テーマ研究の体制作り</li> <li>・校内職員及び可茂地域の小中学校教員等の学びの場としての公開授業の実施</li> <li>・研究や研修において、グループワークを積極的に取り入れる</li> <li>・キャリア教育についての研修や、キャリア・パスポートの実践交流の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員向けアンケートによる職員の達成度等調査</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1テーマ研究において、共通の課題意識をもつグループでの交流を実施</li> <li>・公開授業（9月・11月・1月）の実施及び校内での当日の授業動画の共有</li> <li>・公開講座（2回）や校内自主研修の企画</li> <li>・キャリア教育についての公開講座や自主研修、キャリア・パスポートの実践交流を実施</li> <li>・Teamsを活用した他校の公開講座や各種研修の案内</li> </ul>
評価の視点	評価
① 一人一人のキャリアステージやニーズに応じた1人1テーマ研究体制の構築	A (B) C D
② 各自の課題解決及びキャリアステージに基づく各種研修の充実	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1テーマ研究においてグループワークを行ったことで、似た課題意識をもった職員と、部や学年を超えて交流する良い機会となった。</li> <li>○キャリア・パスポートの作成と活用への意識が高まった。</li> <li>▲校内職員が公開授業を参観できるような工夫が必要である。</li> <li>▲校内研修の充実や各種研修への積極的な参加ができる工夫を通して、職員の研修機会を増やす取組ができるとよい。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1テーマ研究のテーマのカテゴリやグループワークの実施方法の見直し</li> <li>・Teams等を効果的に活用し、各種研修や研修機会の立案・周知を行う</li> </ul>

**【ICT 教育推進部】**

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 活用研修、情報モラル・セキュリティ推進</li> <li>情報機器・ネットワーク管理</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用する学年グループが一部であることと、活用に関する情報を発信できていない状態である。</li> <li>校務パソコンの更新まではトラブルが多々あり、対応に多くの時間を必要としたが、更新後は校務パソコンに関するトラブルは減った。また、パソコンで作業する職員の業務負担の軽減になった。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の活用方法を提案し、授業や校務での実践につなげる。</li> <li>情報機器を安全に使えるように啓発活動を行う。</li> <li>常に ICT 機器を利用できるように、定期的にメンテナンスや管理を行う。</li> <li>校務における ICT 活用を推進し、働き方改革を進める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 教育推進部会</li> <li>ICT に関する校内連絡会</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 活用、情報セキュリティ啓発のための掲示板設置</li> <li>児童生徒、教員が安心して活用できるための機器整備</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 教育推進部内での振り返り</li> <li>ICT 機器の使用の様子</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示板や Teams での情報提供をすることができた。</li> <li>校内の ICT 機器の故障・断線、紛失等のトラブルに対応し、ネットワーク環境改善に取り組むことができた。</li> </ul>
評価の視点	評価
①校務の ICT 推進 (校務パソコン、タブレット端末のメンテナンスと管理、環境整備、セキュリティ対策など)	A B C D
② ICT 活用啓発 (Teams での情報発信、メタモジの活用、個別の相談対応)	A B C D
③行事での機器の利用と管理 (式典、集会での機器の活用やオンライン参加、視覚情報パネルでの情報配信)	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務パソコンの更新やプリンタ等の機器の入替がスムーズにできた。</li> <li>○機器の故障は多々あったが、紛失や機器による事故等を防止することができた。</li> <li>▲ICT 活用啓発に向けた取組を増やしていく。需要の高い内容を発信していく。</li> </ul>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主研修会や Teams での情報提供等を行い、ICT 活用に関する情報を発信していく。</li> <li>機器の破損や紛失、情報セキュリティ事故等を未然に防ぐことができるように定期的な整備、注意喚起を行っていく。</li> </ul>

**【健康安全部】**

評価する領域・分野	保健管理、衛生管理、健康教育、保健指導、給食指導
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関と常に連携を図り、児童生徒の健康管理に気を配っていることに概ね保護者の理解を得ている。</li> <li>・児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応について、保護者の協力及び理解を概ね得ている。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が健康状態を自ら把握し、自身の心や体を大切にできる保健・食育・体育指導の充実を図る。</li> <li>・保護者等や医療機関、教職員の連携を密にした、保健指導及び医療的ケアを実施する。</li> <li>・感染症対策を通して、衛生管理と指導の徹底を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全委員会、学校安全衛生委員会等の各種委員会</li> <li>・給食アレルギー検討会、校外学習等事前検討会、看護師カンファレンス等の担当者会</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断と、対象となる児童生徒の定期的な体重測定、保健日よりと給食献立表の発行を通じて、健康状態への関心を高めることを目指す。</li> <li>・栄養教諭、各学年の担当者と連携し、食育指導を体系的に位置づける。</li> <li>・Teams やすぐーるを活用し、健康教育に関わる内容の研修や各種取組の案内を発信し、必要な職員や保護者が情報を得られるようにする。</li> <li>・関係職員が適宜集まり、課題解決に向けた協議の場を設けて対応する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が大きなアクシデントなく、安心安全な学校生活を健康に過ごすことができたか。</li> <li>・各種委員会や担当者会、訓練、講習会が適切に実施され、情報の共有や関係者間の連携が図られているか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員と連携した健康管理、医療的ケア、食育指導、水泳指導、調理実習、衛生管理、アレルギー対応の実施</li> <li>・Teams を活用した情報の発信と、インシデント報告</li> <li>・主体的に取り組める訓練内容の検討・実施</li> </ul>
評価の視点	評価
①各取り組みを通して、児童生徒、保護者、担任等が健康状態への関心を高めることができたか。	A (B) C D
②関係者間の連携を強化し、保健・食育・体育指導および医療的ケアを適切に実施できたか。	(A) B C D
③健康管理および健康教育の観点から、感染症の状況に応じた衛生管理や指導の方向性を検討、実施できたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の実態と感染状況をふまえ、衛生管理の方法と指導の方向性を検討して児童生徒が安心安全に学べる環境および医療的ケアを実施することができた。</li> <li>○小学部の食育指導の流れが定着してきた。中学部、高等部も実施が進んでいるため、今後も継続し、全体として一貫した流れを築いていけるとよい。</li> <li>○応急手当講習、緊急時対応訓練について、より実践的な内容になるように検討し実施することができた。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年担当者との連携や教材等の紹介を行い、保健・食育・体育指導がより充実するように計画、実施する。</li> <li>・児童生徒が安心安全な学校生活を健康に過ごすことができるよう、訓練・講習・担当者会等での情報共有や関係者間での連携を強化する。</li> </ul>

【防災環境部】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災（防災教育、防災対策、緊急時連絡等）</li> <li>・環境整備（施設管理、校内美化、駐車場管理等）</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常変災時の対応等、保護者への周知を丁寧に行う。</li> <li>・地域、保護者との連携を強化し、防災体制の充実を図る。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『命を守る訓練』をはじめとした防災教育に関する取り組みの充実を図る。</li> <li>・危機管理マニュアルの検証と実効性のある体制構築を進める。</li> <li>・地域住民及び保護者等との連携を通して、校内における防災体制の充実と地域に貢献できる防災体制の構築を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災環境部（分掌会）</li> <li>・防災対策組織</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種訓練の計画的な実施と訓練をもとにした危機管理マニュアルの検証</li> <li>・安全点検、校内清掃の適切な実施と修理修繕の組織的な連携</li> <li>・行政及びPTA等との連携した取り組みに向けた計画</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『命を守る訓練』等を児童生徒の実態に配慮し、有事に対応できるよう計画、実施ができたか。また、訓練での課題もとにした『危機管理マニュアル』の修正を必要に応じてできたか。</li> <li>・安全点検及び校内清掃の適切な実施と施設管理に努めることができたか。</li> <li>・美濃加茂市やPTA等との連携を密にした計画、実施ができたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『命を守る訓練』『非常変災時対応訓練』の計画的な実施</li> <li>・訓練、事案に対応した『危機管理マニュアル』の検証と部分修正</li> <li>・安全点検のデータ化と修理修繕に関わる組織連携</li> <li>・行政と連携した福祉避難所開設訓練の実施と連携強化の確認</li> </ul>
評価の視点	評価
① 計画的な訓練の実施と防災教育の適切な実施がなされたか。	A (B) C D
② 具体的な災害を想定した組織体制（連携）、外部連携、実効性のあるマニュアルへの修正がなされたか。	A (B) C D
③ 適切な安全点検、校内美化（清掃）、施設管理がなされたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○分掌業務に関わる業務、様式の簡略化、データ化で業務の軽減に努めることができた。</li> <li>○各種訓練の計画的な実施及び防災教育週間が実施、推進ができた。また、PTAと連携した防災への取り組みができた。</li> <li>○学校緊急連絡システム（すぐーる）の適切な管理と活用が進んだ。</li> <li>○学校安全マニュアルの検証と組織体制の連携強化ができた。また、外部と連携を強化した訓練の実施ができた。</li> <li>▲避難所開設マニュアルの作成、学校再開プログラムの構築、及び更なる外部との連携強化が課題。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的で多様性のある訓練の実施を通し、危機管理マニュアルの検証を行い、より実効性のあるマニュアル作成を進める。</li> <li>・行政と連携した防災の取組強化と、地域自治体と連携した防災の取組の計画をする。</li> <li>・各業務内容の精査と学校組織が連携した業務のさらなる改善に取り組む。</li> </ul>

【進路指導部】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路学習（産業現場における実習、作業学習）</li> <li>・進路指導（進路指導計画、事業所合同説明会、関係諸機関連携、追指導）</li> <li>・進路研修（進路研修、進路ガイダンス）</li> </ul>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標に共感を得て、児童生徒一人一人の可能性を伸ばす工夫がされている。</li> <li>・授業内容は児童生徒の実態に即しており、体験的な活動や教材教具の工夫により児童生徒は積極的に取り組んでいる。</li> <li>・授業や学校行事等の参観の機会を設け、積極的に公開する。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のニーズや変化に応じた職業教育や就労支援体制の充実を図り、発達段階に応じた生活能力と職業能力を育成する。</li> <li>・就労及び進学に関する情報発信と保護者への啓発、外部機関との連携を強化し、早期からの一貫した進路指導を展開する。</li> <li>・進路に関する職員研修を推進し、児童生徒の希望や社会のニーズに合った進路指導に努める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事における他分掌との連携</li> <li>・教科会及び作業チーフ会</li> <li>・学校アンケート結果の分析</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の充実と成果の確認を図るため、アビリンピックへの初参加（喫茶）</li> <li>・産業現場での働く体験及び卒業後の進路先を見据えた現場実習の実施</li> <li>・B型就労アセスメントや就労移行支援での関係諸機関との連携</li> <li>・保護者への進路説明会、個別進路懇談の実施</li> <li>・障がい福祉サービス事業所説明会、障がい者雇用促進研修会の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の夢や希望に沿った進路決定、進路実現</li> <li>・各事業（進路懇談会、事業所説明会等）のアンケートを基にした意見と評価</li> <li>・各業務における反省と評価</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習の成果確認、アビリンピック競技大会初参加（喫茶）</li> <li>・進路選択、進路実現に向けた定期的な進路情報の発信（進路だより）。可茂エリア福祉事業所情報検索システムの構築、進路の手引きの整備（デジタル管理）。</li> <li>・実習での評価を丁寧にフィードバック（進路懇談）。</li> <li>・福祉事業所サービス説明会や障がい者雇用促進研修会の実施。</li> <li>・会議での協議事項の簡潔な提案と Teams での連絡を活用、会議時間の削減。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 児童生徒の夢や希望の実現に向けた能力や態度を育てることができたか。	A (B) C D
② 児童生徒や保護者目線に立った進路情報の発信をすることができたか。	A (B) C D
③ 学校全体の進路指導に関する知識や指導力を向上させることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○各部で実態に応じた進路学習（作業学習の充実、働く体験、現場実習等）を行うことができた。アビリンピックに参加し、成果の確認ができた。</p> <p>○他分掌と連携し、当校の進路指導や事業所情報を保護者へ発信できた。</p> <p>○進路学習の取組内容を地域の企業や事業所、自治体へ理解促進の場を多く設定できた。</p> <p>▲職員に対して進路に関する情報発信及び研修会が不十分であった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の主体的な進路選択、進路決定及び卒業後の社会生活を支える進路指導就労支援体制の充実を図ると共に新運用中の作業学習の見直し。</li> <li>・関係機関との連携強化、継続的な進路情報の発信、進路相談室の設備整理。</li> </ul>

【渉外部】

評価する領域・分野	「組織運営」「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・学校評価アンケートの結果、「学校は保護者と一体になってPTA活動を進めている」の項目で、昨年度と同様86%の理解を得ることができている。これは、コロナ後のPTA活動が年間を通して根付き始めたものと推測される。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 積極的な情報収集と実践分析に努める。 ② 会員による主体的活動の援助に努める。 ③ 状況の変化や保護者のニーズに合わせた校内(外)研修等の計画・実践に努める。 ④ 学校行事、PTA行事に関わる地域への協力発信を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	① 昨年度からの引き継ぎ書の読み込み・活用 ② 各委員会活動に担当職員を配属 ③ 執行役員会での計画・実施・反省 ④ PTA役員と学校との連携のもと、地域に向けての発信
目標の達成に必要な具体的取組	① 業務にあたった内容を記録に残す。昨年度の書類を参考にした計画 ② 委員会活動の打ち合わせ(事前事後)、活動場所の確保、プリント作成の補助 ③ 主催となるメンバーからの提案、執行役員会での協議、活動計画、実践 ④ 学校への協力体制がある外部団体への連絡
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・各会議（PTA執行役員会、分掌会）での反省、検討 ・PTA行事に参加をした保護者からのアンケート集計（紙面・Forms）
取組状況・実践内容等	①役員会の事前打ち合わせでは、行事の先読みを行い、資料作成を行った。 ②「臨時総会」の計画・開催は、役員の意味を組んで来年度に向けてのPTA組織を変更することができた。 ③PTA交流会の感想回収では、Forms アンケートを活用することができた。 ③保護者のニーズに寄り添った防災についての「研修だより」発行を推進することができた。 ④若尾製菓さんに、お菓子の無償提供に関する依頼を受けていただけた。 ④同窓会へ、HP掲載について呼びかけ、手続き補助を行うことができた。
評価の視点	評価
①昨年度の引継ぎ書類を活かしたか。新たに取り組んだ内容を引継ぎ内容として記録に残せたか。 ②各委員長を支え、保護者が主体的に動ける援助ができたか。 ③保護者のニーズのもとに、需要がある活動の計画、実践ができたか。 ④外部の関係諸機関へ、校内状況の伝達や協力依頼の配信ができたか。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D A (B) C D
成果・課題	総合評価
○保護者ボランティアの呼びかけにより、厚生委員のベルマーク整理の活動にご協力いただける保護者が増加した。 ○各部交流会の開催により、保護者同士の関わりの場を提供することができ、日々感じている不安の軽減につなげることができた。 ○PTA会費より支出をして実現している「夏のワイワイ活動」が、連続2年目となり学校でも浸透しはじめてきた。 ▲募集をかけた「保護者ボランティア」の、幅広い活用法の工夫 ▲昨年度データの活用・引継ぎ（役員の書類作成）	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	☆PTAの「防災」に関わる活動は、計画から学校と共有し、丁寧に相談を進める。【防災環境】 ☆PTA活動・同窓会関係の活動をHPに掲載する。【ICT】 ☆同窓会「20歳を祝う会」の運営に関する確認周知【同窓会】 ◇PTA活動の報告を積極的に行うことで、会員の理解に努める。 ◇縮小されたPTA組織の「運営計画・実施・振り返り」を確認していく。 ◇保護者ボランティアを、PTA活動の中で積極的に取り入れる。

学校関係者評価 (令和7年2月26日実施)

意見・要望・評価等

- ・地域での学校紹介展示や企業による学校見学、児童生徒の新聞紙面での活躍の姿など、学校のことを外に向けてアピールしていくことは大切なことだ。続けていってほしい。
- ・児童生徒を取り巻くすべての人が『P』であるべきだ。祖父母も保護者の兄弟もどんどん巻き込んでいけるとよい。
- ・地域の学校でも低年齢の段階からきちんと指導できるようにしていくことが将来に向けて大切だろう。そういった意味でも、地域支援センター部の存在は重要だ。
- ・地域支援センター部は高い専門性が必要で、大変な業務である。役割をどこが担うか、特別支援学校なのか、あるいは県教委なのか、という議論が必要ではないか。
- ・教育の分野にもいずれA Iが導入されていくだろう。福祉分野にも試験的に導入され、個別の計画作成を補助する取組があると聞いた。注視していってほしい。
- ・公開授業を見に来た人が、その後自校でどう生かしているかを知ることができるとよいのではないか。
- ・各学部と教務部や生徒指導部、進路指導部等が連携して、児童生徒のそれぞれの段階で習得させたことを、目標を設定して指導に取り組んでおり、学校の方針、職員の熱意、努力を感じる。良好な学校運営のためにも、職員の過度な負担とならない範囲で業務を行ってほしい。